

新型コロナウイルス感染症 第7波に伴い、教区の対応

✎ 在主平安

今年の猛暑もようやく終わりが近づき、「あつさ、さむさも彼岸まで」とはよく言ったものだと感じています。これから青森のリンゴは収穫期を迎えます。台風の通り道にならないことを祈るばかりです。それでも、まだまだ暑い日が続きます。水分補給が欠かせない状況です。コロナ感染症に注意しながら、熱中症にも十分留意して下さい。

さて、新型コロナウイルスによる感染症の第7波の猛威も緩み始め、感染者数も減少に転じて10日余りが過ぎています。有難いことであります。

この状況を鑑み、わたくしは、教区本部の司祭と意見交換を行い、次のことを確認しました。

感染者数が減少傾向（0になることは難しい）なので、教会内の活動の制限も少しは緩和出来るのかと考えます。勿論、再拡大と第8波が来るまでの間ではありますが、感染対策を取った上で主日のミサの聖歌も積極的に歌い始めても良いと考えています。勿論コロナ前と同じとまでは言えないのですが、全く歌はない状況であるならば、〇〇の賛歌の部分の歌うとか、或いは入祭の歌、閉祭の歌だけを歌うとか、少しずつではありますが、教会聖堂の広さと集まる人数、換気の徹底を考慮しながら歌による賛美と感謝の表現も始めて下さい。

ただし、基本の対応は、これまでと変わって居りません。

1. 主日のミサは、出来るだけ信徒とともに捧げることを望んでいます。
2. その為には、徹底した感染対策を講じること（消毒、検温、換気、短時間、脱密集）。
3. ミサ中の歌唱も、換気を徹底し、密集を避けてマスク着用であれば、歌う方向で考えてほしいと思います。勿論、司祭チームと信徒との話し合いで決定すること。
4. どうしても人の集まるところが心配な方は、ミサに与ることが免除されること。
5. 信徒とともに捧げるミサの自粛のための判断基準は、単純に感染者数の推移だけにとどまらずに、病床の占有率や各自治体の対応も勘案すること。国の対応、各自治体の対応も考慮して下さい。
6. 主日のミサ以外の各種集会、結婚式、葬儀等も各地区の司祭チームと信徒とで話し合って決定すること。

御対応宜しくお願い申し上げます。早く、小教区の元の典礼が行われることを望んでいます。